

2017年度
学校関係者評価委員会
報告書



学校法人 大和学園
キャリアールホテル旅行専門学校

I. 学校関係者評価委員会の目的

委員会は、本校が経営の現状と課題について適切に把握し、教育活動その他学校運営の改善を的確に行おうとしているかについて、自己評価の結果に基づき客観的に評価することを目的とする。(キャリアールホテル旅行専門学校 学校関係者評価委員会規則 第2条)

II. 2017年度 学校関係者評価委員会 開催概要

1. 日 時 2017年9月4日(月) 10時30分～11時45分

2. 場 所 キャリアールホテル旅行専門学校 (ダイニングルーム)

3. 出席者 委員長 水野 裕士様(学校法人 大和学園 評議員)
委 員 林 惠子様(京都ブライトンホテル 執行役員 総支配人)
委 員 久本 健司様(株式会社JTB西日本 京都支店 営業第三課長)
委 員 金杉 有紀様
(バリューマネジメント株式会社 人材開発部マネージャー)
委 員 柿原 宏幸様(キャリアールホテル旅行専門学校 同窓会会長)
事務局 楠井 秀和(キャリアールホテル旅行専門学校 校長)
事務局 丸岡 文有(キャリアールホテル旅行専門学校 教務部 次長)
事務局 丸尾 友佳(キャリアールホテル旅行専門学校 教務部)

4. 議 事

(1) 各学科の教育目標および本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画についての説明

(2) 自己評価結果についての説明および評価

【1】教育理念・目標	／	【2】学校運営
【3】教育活動	／	【4】学修成果
【5】学生支援	／	【6】教育環境
【7】学生の受入れ募集	／	【8】財務
【9】法令等の遵守	／	【10】社会貢献・地域貢献
【11】国際交流		

(3) 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果の説明

Ⅲ. 評価委員からの評価・意見および校内で検討した改善方策

評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(1) 教育理念・目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・項目4「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の項目のみが「3」評価である理由は何か。 ・項目5の取り組みの内容にある「産業界と連携した教育課程編成委員会を毎年実施し、業界の動向を学校のカリキュラムに反映させている」という項目の具体例はなにか。 	⇒保護者への周知については、年に2回の学生の成績通知郵送や、保護者対象就職説明会を実施しているが、今後より一層連携を深められる余地があるという可能性も含めて「3」という評価にしている。 ⇒第1回教育課程編成委員会の後、委員の方からいただいたご意見を参考にカリキュラム検討委員会を行い、第2回教育課程編成委員会でさらにご確認をいただいている。昨年度は外国語のニーズが高まっているというご意見を頂戴し、2017年度に「韓国語」や「中国語」の講座を新たに開講した。	
評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(2) 学校運営	
<ul style="list-style-type: none"> ・項目6の取り組みの内容にある「法人において、グループ・ガバナンスを構築し、全教職員にコンプライアンスマニュアルを配布し、周知徹底を図っている」の項目について、教職員が確実に理解しているかのチェックを定期的に行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・半年に1回、e-Learningで全教職員にチェックテストを課し、一定の基準をクリアできなかった者は後追いし、別途補講を行っている。 	
評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(3) 教育活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・項目4の取り組みの内容にある「現場同様の施設・設備を利用した実践的な授業や、学外での各現場と連携した授業を企て、実施している」とあるが旅行学科では具体的にどのようなことを行っているのか。 	⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・旅券発券システムであるAXESSが搭載されたパソコンで実際に操作する授業を実施している。 ・旅行セールス実習室では備え付けのカウンターで現場さながらのカウンターセールスの実習を行っている。また、旅行学科ではホテル学科、ブライダル学科に比べ、学外での実習も多い。インバウンドツアーに同行したり、関西国際空港や神戸税関の見学に行ったりしている。 	

<p>・項目11の取り組みの内容にある「毎年の授業評価の結果をもとに、各科目の担当教員の見直しを行っている」の項目について、授業評価はどのような方法で行っているのか。</p> <p>・項目13の取り組みの内容にある「夏季休暇時を中心に、幅広く研修を企画、実施し、教職員の経験年数や能力に合わせて、受講させている」について、加えて学生が受験する各事業所の会社説明会などに参加されると、業界のニーズを把握し、学生へ還元することにつながるのではないか。</p>	<p>⇒インターネットのサイトに全授業のアンケートを登録し、学生のスマートホンで回答させている。授業時間の最後の10分程度で実施し、学生に負担にならないよう余裕を持ったスケジューリングで行っている。授業に出席している学生からは全員採取し、集計は外部の業者に依頼している。なお、質問項目は15項目+担当講師が設定する自由質問で、5段階評価である。自由記述欄もあり、学生は積極的に記入している。また、即日インターネットにて回答を閲覧することができるため、講師ひとりひとりにパスワードとIDを発行して確認いただいている。講師にはこちらのアンケートを元に、「振り返りシート」を提出いただいております。結果を次年度に活かせるよう学科教員も含めて確認している。また、振り返りシートを確認して問題のある科目については担当講師と学科教員とで面談を行っているが、全科目について学科からフィードバックするには至っていない。</p> <p>⇒参考にさせていただく。</p>
評価委員からの評価および意見	評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(4) 学修成果
<p>・項目4「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」の項目について、卒業後連絡が取れなくなるケースも少なくない中、非常に厳しい自己評価をされていると思う。離職率を下げる取り組みについては今後も継続して行ってほしい。</p>	<p>⇒継続して取り組む。</p>

評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(5) 学生支援	
<ul style="list-style-type: none"> ・項目7「保護者と適切に連携しているか」の項目について評価が低い理由は何か。 ・項目7「保護者と適切に連携しているか」の項目について取り組み内容が学科ごとで異なる理由は何か。 	<p>⇒学内のルールについて理解いただけてない部分がある。例えば欠席が規定数を超えると就職先が決まっていたとしても留年が確定する。学生本人は理解していても保護者から「補習はできないのか」といった意見が出ることもある。学費なども同様であり、様々なタイミングで情報を提供し、興味を持っていただき、理解を得られるよう努めたい。</p> <p>⇒旅行学科は1学年1クラス（約30人）の2学年分を担任と副担任の2名で運営しているが、ホテル学科は1人の教員が1・2年生約70人を担任していることや、学科ごとの在籍している学生の気質、男女比、年齢層による違いがある。いずれにせよ、人員体制や学生の気質を言い訳にせずしっかり向き合っていきたい。</p>	
評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(6) 教育環境	
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練はホテルの業界では必須の項目である。特に宿泊部門では知識も必要であるため、日頃から意識付けすることが重要である。ぜひ、避難訓練は実施してほしい。 	<p>⇒2017年度は教職員対象の避難訓練は実施したが、学生を巻き込んだ訓練は実施できていない。今後は夏休みなどを利用し実施したい。なお、今年度は京都栄養医療専門学校が学生と共に避難訓練を実施予定であり大和学園全体で意識的に取り組みたい。</p>	
評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(7) 学生の受け入れ募集	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(8) 財務	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(9) 法令等の遵守	
・特になし		・特になし
評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(10) 社会貢献・地域貢献	
・特になし		・特になし
評価委員からの評価および意見		評価委員からの意見に対する改善方策
評価項目	(11) 国際交流	
・特になし		・特になし